

けんぽく

令和4年2月号



書初め



初詣ウォーキング (荒雄神社)



ごあいさつ

春とは名ばかりの厳しい寒さが続いています。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルス感染症は変異株により更なる拡がりを見せています。利用者様の生活も再び感染防止対策を取りながらのご不便をおかけしているところです。「援護寮」「さくら」「Link」とも幸いにも感染者無く、生活・事業を行えています。

さて、令和3年度も終盤を迎えております。「援護寮」では、コロナ禍にあっても利用者様の地域生活移行の取組は継続し、自信獲得の為様々な活動や経験の積み重ねを、日々楽しみながら行いました。年初めにはそれぞれが今年の目標や抱負を「書」で表現しました。「さくら」では、利用者様が元気に仕事に励み、ホームでは自分らしいゆとりの時間を過ごされています。また「Link」でも多くの利用者様の就業生活を支えるため、就職支援・定着支援の他、セミナーやイベントを開催しました。

今年度一年間お世話になりました各方面の皆様へ感謝申し上げます。次年度も利用者皆様自分らしい地域生活を長く続けられますよう、ご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

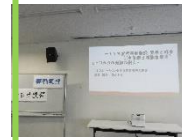
春と共に新型コロナウイルス感染症終息の訪れを待ちながら、どうか皆様お健やかに過ごしてください。



センター長 浅野 律子

Link(リンク)より

『発達障害者啓発セミナー』開催しました！



12月17日、障害者雇用の推進を図ることを目的に『当事者理解と職業生活～支援の継続のために～』をテーマに、大崎市図書館を会場に“3密回避・ソーシャルディスタンス確保”等の感染防止対策を講じて開催しました。

会場の人数制限もあり30名の募集に対して24名の方の参加をいただき、講師の宮城県発達障害者支援センター「えくぼ」佐藤主任主査のお話により、参加者からは「とても参考になり今後の支援に活かしたい」等の声が多数寄せられました。



『第2回在職者交流会』開催！

1月16日、古川西部コミュニティセンター多目的ホールを会場に開催し、12名の方が参加されました。

コロナ感染防止対策を講じながら、今回はラジオ体操・旗揚げゲーム・玉入れ等のミニ運動会で身体を動かし、その後のグループ毎のトークタイムではお互いの就労中の悩みや困り事等の情報交換をしました。

顔馴染みの仲間と共に交流を深め、ストレスの発散が図られ仕事への活力になった様子でした。

さくら事業所より

『コロナ禍のクリスマスはホームパーティー！』



12月は忘年会の季節ですが、新型コロナウイルスのオミクロン株が流行りの兆しをみせている影響で、今年度も事業所全体での開催を見送り、ホーム毎にクリスマス会を開催しました。グループホームの皆様には日頃から行動の自粛をお願いし、様々なご不便をおかけしてはいますが、美味しいと評判のお菓子屋さんのケーキやプレゼントを用意し、事前に要望を募ったお寿司をテイクアウトして、今年の振り返りや来年の希望や目標をお互いに発表するなど、楽しいひとときを過ごしました。

皆さまからは「健康で仕事を頑張りたい」、「また早くホームの皆さんと一緒にドライブ外出に行きたい」、「楽しく元気に過ごしたい」等のお話が多く出ていました。一日も早く以前の生活に戻りたいとさくら利用者、職員一同願っています。



援護寮のショートステイ空き情報はホームページ「お知らせ」にて掲示しています。



社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会 県北地域福祉サービスセンター

〒989-6117 宮城県大崎市古川旭5丁目7-21

宮城県援護寮

TEL:0229-23-1513 / FAX:0229-23-1562

①宿泊型自立訓練・自立訓練（生活訓練）【定員20名】

②短期入所（ショートステイ）【定員1日2名】

●令和3年度 事業計画

【重点項目】

「SSTの実践による職員のスキルアップ及び支援の質の向上」

＜事業所におけるなんでも相談・苦情解決窓口＞

責任者 所長 浅野律子

担当者 主任主査 阿部勝美

第三者委員 新井弘美

地域支援センター 〒989-6117 宮城県大崎市古川旭4丁目3-7

①障害者就労・生活支援センターLink TEL:0229-21-7466

②指定共同生活援助事業所さくら（介護サービス包括型）

グループホーム「こはる」「さくら」「くじら」「あじさい」

TEL:0229-25-5815

ほほえみ

●令和3年度 事業計画

【重点項目】

「職場定着率の向上」

＜事業所におけるなんでも相談・苦情解決窓口＞

責任者 所長 浅野律子

担当者 主任主査 森山和子

第三者委員 新井弘美

【外出行事】



『石ノ森萬画館』



『松島外出』



『定義山外出』

援護寮では社会体験として、皆さんで計画を立てて外出行事を行っています。現在はコロナ禍の中で、社会情勢を見ながらの判断ですが、人数や行き先選定を含め感染予防を徹底して、なるべくリフレッシュできる機会を設けています。

- 石巻外出(10月11日)…石ノ森萬画館に行き、仮面ライダーなどキャラクターを懐かしみました。海沿いのドライブでは震災に負けない、復興の力を感しました。
- 松島外出(10月19日)…「海が見える公園」や、「西行戻しの松公園」で散策し、日本三景松島の絶景に魅了されました。
- 定義山外出(11月26日)…天気も良く、気持ちのいい参拝日和でした。広々とした敷地を歩いたり、名物“三角油揚げ”をいただいたり、その土地の良さや歴史を体感した外出でした。

【感染症対策】

センター各事業所では、毎日の検温や手指消毒、マスク着用、相談室や食堂の亚克力板設置、定時消毒などが定着しています。

1月には「新型コロナウイルス感染症防護具の着脱手順」の動作訓練、「抗原定性検査ガイドライン研修」(テスト付き)を実施。自事業所だけでなく、他事業所への応援も想定される中、基本知識と動作は身に付けておかなければいけません。今後も同様の訓練を繰り返し実施していきます。

予防具着脱訓練の様子▷
動画視聴とテキスト、実践による訓練



【SST 研修】

講師「みやぎ心のケアセンター 気仙沼地域センター」
課長 片柳光昭 様 (SST 普及協会認定講師) ▽

令和3年度、援護寮事業の重点項目「SSTの実践による職員のスキルアップ及び支援の質の向上」に基づき、計5回の職員研修を行いました。

昨年度に続き、基礎研修(利用者理解)から実践研修(カリキュラム作り)まで、オーダーメイドでじっくりと学んでいます。

新任職員も中堅職員も、徐々に理解と自信がついてきたことを実感しています。利用者の皆さまへ質の高いサービスを提供できるよう、次年度も研修を継続していく予定です。



【日中活動の様子】

事業所の活動は「[東北ブログ](#)」でも紹介しています。ぜひご覧ください。



『クリスマス会』

『お正月』

『節分』

『バレンタイン』

日中活動では行事を企画して季節を感じ、楽しむことも生活訓練としてしています。

- 12月 クリスマス会…自分たちで育てた畑の野菜を使って調理をしたあとは輪投げ大会をして親睦を深めました。
- 1月 お正月…お正月と言えばお餅です。焼いたりお雑煮にしたりと様々な調理をしながら新年を迎える喜びを味わいました。
- 2月 節分…いなり作りに挑戦しました。節分について学び、鬼のお面に向かって豆まきをして邪気を払いました。
- 2月 バレンタイン…ホットケーキミックスでオムレット作りをしました。ひっくり返すのは緊張の瞬間です。

他、普段の活動では掃除や講座、調理など様々なことに挑戦しています。



『寮内清掃』

『生活講座』

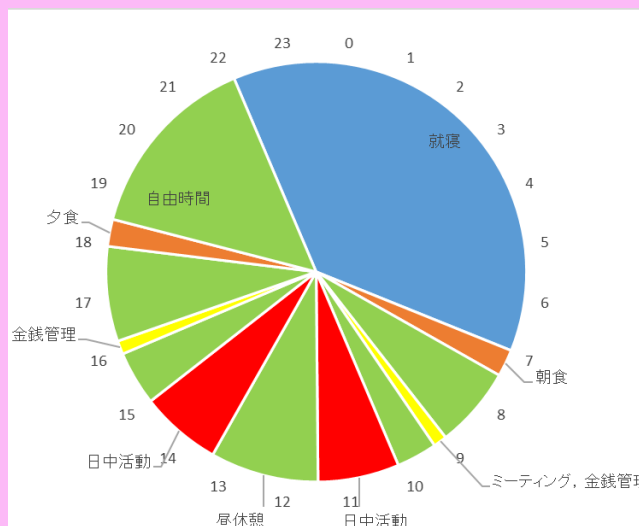
『共同調理』

『園芸』

【援護寮での過ごし方】

平日は午前午後と『日中活動』に参加し、地域で暮らすため、働くための力をつけていきます。自由時間は皆様居室で過ごされたり、食堂でテレビをご覧になったり、散歩に出掛けたりと思いいいに過ごされています。

その他、食事当番がある際は食事の前後に準備、片付けをします。洗濯室や灰皿の当番もあり、自由時間の内にご自身のタイミングで取り組んでいます。



部屋は全個室、バストイレ付きです。

【令和3年度 施設サービス評価 第三者委員会】

- 第三者委員：新井弘美様、中山智幸様
- 実施日：令和3年12月15日
- 議題：施設サービス自己評価(援護寮、さくら事業所)結果、「B」「C」判定の改善策「なんでも相談報告」、「ヒヤリハット体験報告」「事故報告」
- 両委員から助言(抜粋)…
「医療職のいない事業所として医療機関をはじめ関係機関との密な連携が重要」
「ひきこもり支援は高い専門性が必要。すぐに自立訓練につなげられるものか、根柢の問題解決のためには慎重な話し合いをしてほしい」

業務を続ける中でいつのまにか見落としがちな核心的なご意見、ご助言とともに、多様化するニーズに応えようとする姿勢をお認めいただき、職員一同大いに学び励まされました。